

第 I 部 2050 年中部圏ビジョンについて（未定稿）

1. 2050 年未来社会（人口動態・経済規模からの想定）

（1）人口減・少子高齢化・労働力希少社会

<世界>

- ・総人口は増加の一途をたどり、2086年(104億人)にピークを迎える。以降は人口減少へ。
(2000年：61億人、2050年：97億人、2100年：103億人)
- ・先進国地域は概ね横ばいで推移。発展途上地域は大幅な増加。
(人口比率2000年と2100年比較：アジア61%⇒45%、アフリカ13%⇒38%)

<日本および中部圏>

- ・日本の総人口は2008年(128百万人)をピークに減少、2056年に1億人を割る水準に。
「長期的に」「かなり急速に」「不可逆的に」人口が減少する。日本社会の最大にして喫緊の重要問題。以下、データは国立社会保障・人口問題研究所推計値(2023年4月、中部圏は12月)。

<総人口>

(単位：百万人)

	2020年	2050年	増減数	増減率(%)	2070年	2100年
日本	126	105	△21	△17%	87	63
中部圏	17	14	△3	△18%	—	—

- ・外国人比率は2070年に日本総人口の10.8%となり、外国人が日本社会を下支えする構図。

<外国人数(外国人比率)>

(単位：万人)

	2020年	2050年	2070年
日本	275 (2.2%)	729 (7.0%)	939 (10.8%)
中部圏	—	—	—

- ・少子高齢化が進行し、世界で最も高齢な社会となる。出生数は、初めて80万台を切った2022年の77万人から2050年には62万人まで減少する。

<高齢者数(高齢化率)>

(単位：百万人)

	2020年	2050年	増減	2070年
日本	36.0 (28.6%)	38.9 (37.1%)	2.9 (8.5P)	33.7 (38.7%)
中部圏	4.8 (28.2%)	5.2 (37.5%)	0.4 (9.3P)	—

- ・生産年齢人口も2050年に2020年比で約2千万人減少する。

<生産年齢人口(生産年齢人口比率)>

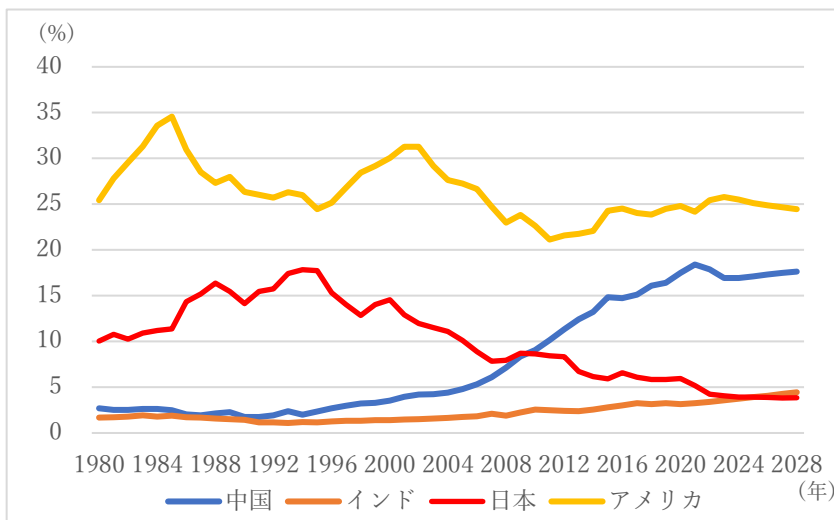
(単位：百万人)

	2020年	2050年	増減	2070年
日本	75.1 (59.5%)	55.4 (52.9%)	△19.7 (△6.6P)	45.4 (52.1%)
中部圏	10.1 (59.3%)	7.3 (52.3%)	△2.8 (△7.0P)	—

(2) 日本の相対的経済規模の縮小

- ・日本の GDP は、1990 年以降、バブル崩壊と金融危機を経て停滞が長期化。世界の GDP に占めるシェアは急速に低下（1994 年：17.8%、2001 年：12.9%、2022 年：4.2%、2028 年：3.9%、IMF 実績・予測）
- ・中部圏の域内総生産は全国の 14.5%（2020 年度）。
- ・一人当たり GDP（名目・実質）も、GDP と同様に停滞（実質額 2000 年：3.5 百万円、2021 年：4.3 百万円）。国別ランキングでは 2000 年第 2 位から 2022 年第 32 位まで低下。
- ・中部圏の一人当たり県民所得は全国を若干上回る水準（2020 年度：全国の 101.4%）。
- ・日本の潜在成長率は、2000 年以降労働要因（就業者数、労働時間）が押し下げているが、近年では就業者数の増加（女性や高齢者、外国人）が成長に寄与
- ・国内の設備投資が伸び悩む。企業の投資は、海外設備投資や海外企業の M&A にシフト。

図表 世界 GDP に占める各国シェア



2. 2050 年未来社会（科学技術面からの可能性）

(1) リアルとバーチャルの融合（方向性としては、バーチャルが日常・リアルが非日常か）

- ・人の能力拡張やバーチャル空間活用により、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放される。
- ・スマートフォンの代わりに、誰もが AR（拡張現実）メガネを使用する（ARメガネはやがてスマート・コンタクトレンズに変わっていく）。
- ・街からは看板や信号も撤去され、現実世界をどの程度見たいかも自由に選べる可能性がある。
- ・一人が複数の経済圏・コミュニティに所属することが容易になる。多様な価値観に基づく「自分らしい」人生を実現できる。職業も居住地も多様化する。
- ・高速ネットワーク、仮想現実、触覚や臭覚など五感を伝えることで、遠く離れた人同士がリアリティをもってつながる。
- ・バーチャルが日常となるため、リアルの体験が貴重なものとなる。
- ・AI が偶発的な出会いをデザインし、個人の成長につなげている。
- ・AI ロボットが労働を担い、人間は創造性を発揮する分野に集中している。

- ・「記憶」を適切にコントロールすることが可能となる。
- ・各種 AI ロボットが実現する。
 - －人の感性、倫理観を共有し、人と一緒に成長するパートナーAI ロボット
 - －ビッグデータからの仮説生成・検証・実験を自動的に行い、医薬品や技術等を開発
 - －農林水産業、土木工事等における効率化、労働力の確保、労働災害ゼロを実現
 - －災害時の人命救助から復旧までを自律的に実施
 - －月面、小惑星等に存在する地球外資源の自律的な探索、採掘を実現
 - －AI ロボット技術と人の能力拡張技術の活用による様々なサービスの創出
- ・経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現している。
 - －量子コンピュータを含む量子技術を応用し、様々な分野（医療、セキュリティ、材料開発、エネルギー、創薬、物流等々）で革新を生み出している。
- ・AI ロボットへの過度な依存が進む（フェイクニュースの拡散やサイバー攻撃など AI ロボットが暴走する）

（２）ライフサイエンス（ウェルネスの向上）

- ・治療よりも予防を重視。超早期に疾患の予測・予防をすることができる。
- ・診断から難易度の高い手術まで次第に学習能力をもった機械が担うようになる。
- ・再生医療の確立により、人類の寿命は大幅に伸びる。
- ・遺伝子治療から遺伝子操作へと実践のステージ変わる。個人が自分のゲノムも操作することも可能になる。
- ・人間の脳はインターネットと直接つながる。脳のアップデートが可能となる。
- ・ウェアラブル端末によって、24 時間休むことなく医療用のデータが収集される。また、インターネットにつながった住宅（スマートホーム）も、健康上のデータを集めてくれるため、医療機関に足を運ぶ必要はなくなる。

（３）食料・水

- ・農場は機械化や自動化がはるかに進み、工場に近いものになっている。
- ・窓のない建物の中で、水も栄養素も照明も徹底管理された都市型野菜工場が普及する。
- ・遠隔操作ロボットの発展により、現地に行く必要がなくなり、場所を限定しない働き方が実現できる。
- ・細胞培養による動物性食品の製造も進む。少なくとも、ステーキと牛乳は工場で大量生産されるようになる。
- ・2050 年には世界の人口は 100 億人近くに達するが、農畜産業の進歩により食糧難は起きず、一人あたりのカロリー摂取は今よりむしろ増加する。
- ・未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業が創出される。
- ・世界的な人口増加、環境破壊にともなう食料・水不足がより深刻化する。

(4) 資源・エネルギー・環境（脱炭素・循環経済・ネイチャーポジティブ）

- ・未来の太陽電池は、まずは小型電子機器や窓に貼るフィルムに、その後はカーテンや衣服などの布地にも使われるようになる。
- ・核融合では、高濃度の放射性廃棄物や原子炉のメルトダウンの脅威なしに、安全に無限の電力を供給している（21世紀中）
- ・地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現している（資源制約がなくなっている）。
- ・資源・エネルギーの制約は継続する。

(5) 防災・インフラ

- ・建造物の状態をデジタルで管理し、インフラ破損被害が起きない社会が実現する。
- ・激甚化しつつある台風や豪雨を制御し、極端風水害の脅威から解放された安全安心な社会が実現される。
- ・地球温暖化にともなう異常気象がさらに激甚化する。

(6) フロンティア開拓（宇宙・地底・海洋）

- ・フロンティアなどの資源を活用したエンターテインメントが生まれている。
- ・宇宙旅行産業が当たり前のサービスとなっている（21世紀中）。

(7) 製造業

- ・「スマート材料」をはじめとした、さまざまな新材料が生まれる。
- ・製造業の大量生産の現場では、3D印刷が欠かせないツールになる。
- ・製造業においてリサイクルは必須となる。アーバン・マイニングが一大産業となる。
- ・複雑な有機飼料を食べ、特定の燃料や化学物質を生み出す人工微生物が自律的ロボットに組み込まれ、製造業のあり方は根本的に変わる。

(8) モビリティ

- ・走行するモビリティが“見守るクルマ”として地域の治安維持に貢献している。
- ・先進安全自動走行の普及で交通事故が「ゼロ」になっている。
- ・モビリティも活用したエネルギーマネジメントが実現している。系統によらず、水素や電力等のエネルギーをモビリティが輸送している。
- ・公共交通に留まらず、あらゆるモビリティ同士が連携し、シームレスな移動・輸送を実現している。空飛ぶクルマ・ドローン、パーソナルモビリティ等新たに拡大するモビリティとも連携している。
- ・コネクテッドカーによるインフラ連携や、自動走行車の普及拡大で渋滞ゼロが実現している。
- ・モビリティが店舗や仕事場、休憩所、交流の場等としても活用され、リアルなつながりを創出している。新しいモビリティの活用は街づくりとも連携し、街のにぎわいも創出していく。
- ・モビリティの進化により、あらゆる移動弱者は解消し、平等な移動機会が実現している。
- ・自動走行の実現とも合わせて、移動中にもコミュニケーションやエンタメ、運動等、運転

に囚われない新しい時間の使い方が可能になっている。

(9) 働き方・教育・人材育成

- ・AI・ロボット・ネットワーク技術の掛け合わせによって、いつでも・誰でも・どこでも、受けた教育・学習・習い事が受けられる社会が実現している。
- ・従業員の離職率や将来の業務成績などは、すでにアルゴリズムのほうが管理職より正確に予測できる。
- ・AIによって「ミドルスキル」の仕事全般が駆逐され、伝統的なキャリアの階段が壊れ、キャリア形成の考え方の見直しが迫られる。
- ・AIによって、いくつかの職種は根こそぎ駆逐され、特定の技能は無用の長物と化す。その結果、まずは教育を施し、その後徐々に技能を開発していくという伝統的なモデルは通用しなくなる。
- ・フリーランスワーカーの総数は一段と拡大する。そのため、フルタイムの正社員を雇用することにしか関心ない企業は、最も優秀な人材の一部を取りこぼすことになる。
- ・人生100年超時代。第二または第三の人生をスタートする時点で、再教育（リニューアル教育）を受けている。

(10) 世界の重大リスク

- ・核戦争、生態系の破壊、AI戦争といった三つの重大リスクがある。

3. ありたい2050年未来社会（日本全体）

(1) マインドセット

- ・未来に対する意志を強く持つ（自分たちは何をしたいか・するべきか／したくないか・なすべきでないか）。
- ・よりよき未来社会のために、また、経済安全保障（自律性・不可欠性の確保）のためにも、先端技術開発・イノベーションを最大限推進すると同時に、ELSI（Ethical, Legal and Social Issues：倫理的・法的・社会的課題）に予見的・包括的に対処する。
- ・想像を超える革新的新技術やAIの進展により、人間が労働から解放される可能性もあるなか、「人間とは何か（人間らしさ、豊かな暮らしとは何かなど）」が問われる覚悟を持つ。
- ・世界一高齢化が進む日本は、人類にとって「フロンティア国家」であるとの認識を強く持つ。
- ・独自の価値観・世界観を提示し、経済規模が相対的に縮小するなかで世界に対して存在感を出す。

(2) 目標・重視する価値観・ありたい姿（ビジョン）

ア. 目標

○人口減少下における持続可能性（経済・社会・環境）と経済成長の両立

- －「持続可能性」のコンセプトの中心にあるのは、次世代のことを考えるということ。
- －単に量的な時間の長さを意味するのではなく、質的な要素も含まれている。

- －「持続可能な」ために遊びの要素（冗長性、楽しさ）も必要。
- －新たなテクノロジーによる経済成長は必須。
- －人口減少のスピードを緩和し、最終的に人口の安定化が必要。

イ. 重視する価値観

人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・カネや AI との対比で人間が主。人間の魂・感性・センスの重視。 ・AI による恩恵は万人で共有。雇用の破壊などのコストは社会全体で引き受ける。 ・人（ヒト）が成長の源泉との位置づけ。 ・ウェルビーイングの達成。 ・自然・生態系との共生。
多様性・包摂性	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性（ライフスタイル、生き方、働き方、人材等）を認める・生み出す・活かす。 ・選択肢がある、チャレンジできる、失敗が許される、様々な評価軸・尺度がある、数字やスペックばかりに還元しないような社会。 ・誰一人取り残さない（SDGs の基本理念）。みんながどこかで何らかの形で活躍できる社会。 ・イノベーションを生み出す、多様性のある社会経済構造 ・ウェルビーイングにつながる地域・文化・自然・生態系の多様性

ウ. 日本全体のありたい姿

- ①資本蓄積を軸とした好循環により持続的な経済成長を達成している。金融資本の増加のみではなく、富の源泉である自然・人的・社会資本も維持・発展している。
- ②人口減少のスピードを緩和するとともに、人口減・少子高齢化による供給制約および経済社会の活力低下（イノベーションの停滞、デジタル化の遅れ等）を克服している。
- ③世界に対して高齢化社会のモデルを示している（若年層への投資、外国人受入れの拡大、女性活躍推進、高齢者のスキルを広く社会で活かす等）。
- ④AI 時代に対応した学校教育が再構築され、民主主義の基盤となる、適切な判断ができる成熟した国民・市民を育成している。
- ⑤AI・ロボットと人間の共生・連携による新しい働き方により労働力不足が解消されるとともに、人生百年超時代に応じた、多様な生き方・働き方による人々の活躍の場が広がり、ウェルビーイングを達成している。
- ⑥集中型および大量生産・消費・廃棄型社会から、持続可能性の高い自立・分散型と循環型のハイブリッドな社会を形成している。
- ⑦脱炭素・循環経済・自然再興（ネイチャーポジティブ）を統合的に実現し、地球環境に貢献している。
- ⑧人口減に対応した適正な社会インフラが維持・形成されるとともに、レジリエンス（防災・減災）も強化された安全・安心な社会が形成されている。
- ⑨東京圏が大規模災害に被災した場合でも、中枢機能のバックアップや非東京圏への分散化により、日本の経済社会活動の中枢機能が麻痺しない社会となっている。

- ⑩日本社会の誇るべき歴史的・文化的要素も活かして、世界に対してソフトパワーを発揮し、世界の発展と平和に貢献している。

※ここに、上記の「ウ．日本全体のありたい姿」に関連したマクロ分析を記載予定

4. ありたい 2050 年未来社会（中部圏）

～世界中から人・モノ・カネ・情報を引き付ける魅力と活力のある地域～

（１）マインドセット

- ・地域の独自性（他地域との差異）に価値があることを認識し、地域資源・資本（技術、産業、人材、文化・芸術、観光、自然等々）を活かす。
- ・グローバルに考える（東京標準ではなく世界標準で）
- ・オープンマインドで、国内外から多様な人材を受け入れ、チャンスを与える（スタートアップなどがチャレンジできる地域）。

（２）中部圏のありたい姿

ア．ビジネス・産業

- ①産業の進化と多様化（AI・ロボット化、バーチャル化、ソフト化、デザイン化、サービス化等）を先導的に推進し続けている地域。
- ②大企業のみならずスタートアップや海外企業などの多種多様な企業や、特色のある大学・研究機関との連携・協働（エコシステム）により、絶えずイノベーションが生み出され、グローバルな競争力のあるビジネス展開ができる地域。
- ③特に、モビリティ分野を起点として異業種との連携・協働により、単なる「移動」を超えた新たな価値を生み出し世界を先導している地域。

イ．人材・働き方

- ④様々な企業や大学・研究機関に国内外から多様な高度人材が集まるとともに、当地域でのビジネスや研究、学びなどを通じた人材育成により、他地域にも高度人材を供給している地域。
- ⑤中部圏の魅力と活力が、ビジネスや研究、学びなどを目的とした多くの来訪者を国内外から惹き付けている地域。

ウ．持続可能な地域社会

- ⑥東京一極集中の是正を実現する自立・分散型と循環型のハイブリッドな広域圏の「ひな型」を示す地域。
- ⑦リニア開業効果および日本中央回廊の形成効果を、道路ネットワークの整備・活用や中枢機能の形成により最大限活かした地域。

- ⑧将来生じることが確実なリスク（特に南海トラフ地震）に対して、ハード・ソフト両面での実効的な対策がなされ、レジリエンスの高い安全安心な地域。
- ⑨社会・地域全体でのバックアップにより、安心して子供を産み育てられるとともに、高齢者や障がい者、外国人に優しい地域。
- ⑩国内外から人を魅了する「文化・芸術」、「遊び」があり、「シビックプライド」も高い地域。

中経連としては、産業界の立場から特に産業の持続可能性を高める方策、すなわち生産性の向上や付加価値の向上につながる方策を中心に必要な取り組みを第Ⅱ部で提示する。

以 上